資料２

政策評価（中間評価）の概要

１　新たな政策評価制度の概要

（１）評価の目的

・新基本計画に掲げるまちづくりを推進するため、計画事業の進捗状況等を踏まえた指標の分析・考察を行い、行政課題を抽出することにより、行政活動の改善につなげるとともに、次期基本計画や実施計画の策定などに活用する。

（２）評価の対象

・新基本計画における５つの「政策（＝まちづくりの方向性）」を構成する「施策の柱（１９）」とする。

（３）評価の方法

・所管局及び総合政策局の連携のもと、以下の３段階で評価を行う。

段階	実施方法	実施部署
①　行政活動実績評価	客観指標の達成状況について、計画事業の進捗状況や外部要因と関連付けた分析・考察を行う（客観指標：136）	第1段階：所管局 第2段階：総合政策局
②　アンケート指標の分析・考察	市民アンケートで把握した市民の生活実感・行動の状況について分析・考察を行う（生活実感指標：14、行動指標：2）	総合政策局
③　政策評価	①②を踏まえ、総合的に分析・考察を行うとともに、課題を抽出する（施策の柱：19）	総合政策局

（４）評価の時期

・各実施計画の計画期間終了後に実施する。

【参考】政策評価制度の再構築における主な見直し内容（平成２９年度）

①アンケートの構造化（第２・３層の追加による客観指標等との接続強化）

②客観指標の見直し（より適切な指標や目標値の採用）

③評価方法の整理

（機械的な点数化・平均化による５段階評価　→　実態に即した文章による分析・考察）

④評価プロセスの整理（指標の性質や関係性を踏まえ、３段階に変更）

２　政策評価シート作成の考え方

（１）基本的考え方

・第２次実施計画期間中（平成２７～２９年度）における「市の取組み状況」及び市民アンケート（平成３０年９～１０月実施）により把握した「市民の生活実感・行動の状況」に基づき、評価する。

・「市民の生活実感に影響を与えた主な要因」などについて分析・考察を行い、課題を抽出する。客観指標のみを用いている場合は、未達成項目を中心に分析・考察を行う。

（２）構成・記載内容

政策評価シート　１－２　緑と花のあふれる都市空間を創る

1 「全体総括」及び「各指標の達成状況一覧」を記載

１　評価結果

（１）客観指標（詳細は別添「行政活動実績評価シート」参照）

・全７指標中、目標達成・概ね達成をあわせ５指標（うち達成３指標、概ね達成２指標）、未達成：２指標となった。

No	指標名	単位	H26末値	H29目標値	H29末値	目標達成状況※
6	市民や企業が管理・運営に関わる公園数	公園	16	33	31	概ね達成
7	大規模な公園の利用者数（有料施設）	万人	389	429	447	達成
8	老朽化した遊具の更新数	基	209	368	373	達成
9	動物園入園者数	万人	57.5	70.0	61.6	未達成
再掲	市街化区域内で保全されている緑地の割合	%	10.2	10.7	10.3	未達成
10	花いっぱい市民活動団体数	団体	442	477	473	概ね達成
11	オオガハス関連イベント来場者数	人	2,000	19,000	19,090	達成

※目標達成状況「達成」：目標達成率 100%以上　「概ね達成」：目標達成率 80%以上 100%未満　「未達成」：目標達成率 80%未満
※目標達成率 ＝ （H29 末値 －H26 末値）／（H29 目標値 －H26 末値）×100

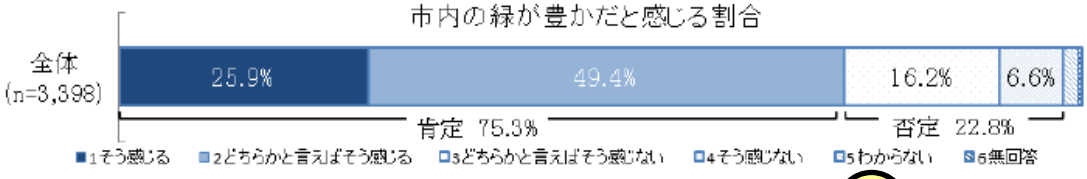
2 達成状況を分類

（２）市民アンケート

ア　全体傾向

3 実感指標に係る設問の回答傾向を記載

・市民の四分の三が肯定的に評価した。



イ　市民の実感に影響を与えた主な要因（肯定／否定と感じた主な理由）

4 実感の理由を選択する設問の回答傾向から、特徴的な項目を抽出

（ア）肯定的回答

・「身近な公園の緑（71.5%）」、「道路沿いの街路樹（53.6%）」

・これらの項目については、肯定的に評価されたと考えられる。

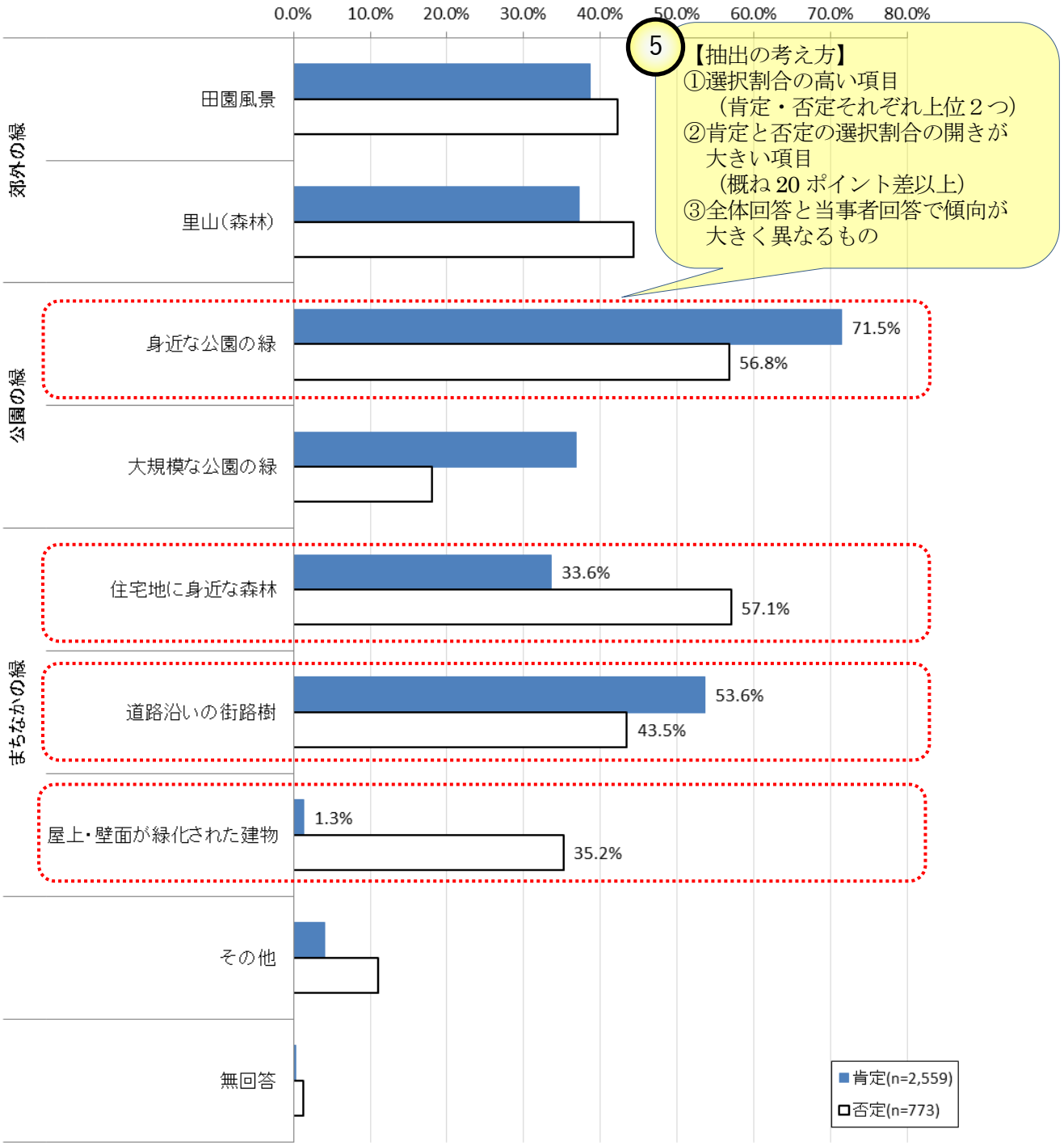
・ただし、否定的回答における選択割合も、「身近な公園の緑（56.8%）」、「道路沿いの街路樹（43.5%）」と高いことから、否定的実感にも着目する必要がある。

（イ）否定的回答

・「住宅地に身近な森林（57.1%）」、「屋上・壁面が緑化された建物（35.2%）」

・これらの項目については、いずれも肯定的回答の選択割合が低いため、否定的に評価されたと考えられる。

肯定／否定と感じた理由



※このグラフは施策の柱の生活実感指標ごとに、肯定／否定と感じた理由を選択した割合を示す（複数回答）。
「肯定」の母数は生活実感指標設問における肯定的回答者、「否定」の母数は同否定的回答者。
（出典）H30 年度千葉市まちづくりアンケート

（３）評価のまとめ

・客観指標は、全７指標中、目標達成、概ね達成あわせて５指標（うち達成３、概ね達成２）、未達成は２指標であった。そのため、市の取組みは、全体としては進捗が見られたものの、必ずしも順調ではなかった。

このような状況にあって、市民アンケートでは、市民の四分の三が肯定的に評価していることから、市の取組みに対し、評価が得られたものと考える。

6

客観指標の状況を踏まえ「市の取組みの進捗状況の総括」を記載。

【総括の考え方】
①「順調であった」
　客観指標がすべて目標達成
②「概ね順調であった」
　客観指標の目標達成が 80%～100%
③「必ずしも順調でなかった」
　客観指標の目標達成が 50%～80%
④「順調でなかった」
　客観指標の目標達成が 50%未満

※ただし、目標値と大きく乖離するなど、未達成指標の状況によって表現を修正。

7

市民アンケートの状況を踏まえ「市の取組みに対する市民の評価」を記載。

【評価の考え方】
①「評価が得られた」
　肯定的回答割合が 50%以上かつ肯定割合＞否定割合
②「ある程度評価が得られた」
　肯定的回答割合が 50%未満かつ肯定割合＞否定割合
③「評価が得られなかった」
　否定割合＞肯定割合

※以下の場合は、評価が分かれたと記載

・肯定割合、否定割合が同程度の場合
・ひとつの施策の柱に複数のアンケート項目があり、異なる評価結果となった場合

・市民の実感に影響を与えた主な理由

① 「公園の緑」

・「身近な公園の緑」が肯定的に評価された。

計画的な公園緑地の整備により身近な公園の充実を図ってきたことが要因として考えられる。

② 「まちなかの緑」

・「道路沿いの街路樹」が肯定的に評価された。

四季を通してその魅力を感じることのできる街路樹が多く存在していることが要因として考えられる。

ただし、否定的回答の理由としても高い割合で選択されている。

・「住宅地に身近な森林」「屋上・壁面が緑化された建物」が否定的に評価された。

「住宅地に身近な森林」については保存樹林等の減少が、「屋上・壁面が緑化された建物」については活用状況の低迷や、市民の目への触れにくさなどがそれぞれ要因として考えられる。

２　分析・考察

・１（２）で抽出した、市民の実感に影響を与えた主な要因について分析・考察を行い、課題を導出する。

8 客観指標や計画事業等、その他外部要因と関連付けた分析・考察を行い、課題を抽出。
※アンケート指標（生活実感指標）がない場合は、未達成となった客観指標を中心に分析・考察を行う。

（１）公園の緑

ア　身近な公園の緑

【市民アンケート】

・肯定的に評価された（選択割合：肯定 71.5%、否定 56.8%）。
ただし否定的回答の理由としての選択割合も高く、不満もあると考えられる。

【客観指標】

・市街化区域内で保全されている緑地の割合：10.3%（目標：10.7%）［未達成］
目標は達成できず。ただし、都市公園等の整備については順調に進んでおり、面積も増加。
市民一人当たりの都市公園面積は、首都圏政令市・東京特別区と比べ高い（図表１）。

【図表１】市民一人当たり都市公園面積（首都圏政令市）

市町村名等	指標名：1人当たり都市公園面積（㎡／人）		
	H24.3.31	H27.3.31	H29.3.31
さいたま市	5.1	5.1	5.1
東京特別区	3.1	3.0	3.0
横浜市	4.8	4.9	4.9
川崎市	3.8	3.8	3.9
相模原市	4.1	4.2	4.7
千葉市	9.1	9.3	9.4

（出典）国土交通省ホームページ

【計画事業等】

（計画事業）

○公園緑地の整備

・住区基幹公園（身近な公園）：整備２か所、用地取得１か所
（目標：整備２か所、用地取得１か所）［達成］

（関連事業として）

長寿命化計画に基づく遊具更新　164 基（目標：206 基）

出入口等バリアフリー化　0 公園（目標：12 公園）

※　社会資本整備総合交付金（国費）の内示減に伴う事業量減。

【考察】

・計画的な公園緑地の整備により身近な公園の充実を図ってきたことが、肯定的な評価につながっていると考えられる。

・一方、否定的実感につながる理由はアンケートからは明らかではないが、施設の老朽化や草刈りや樹木剪定等の維持管理回数などが原因と考えられる。遊具の更新、バリアフリー化が目標未達成であったことが遠因となっている可能性もある。

・市民が日常的に利用しやすく、緑に親しめる公園づくりを進めることが必要。